

～新総合体育館の機能（各諸室の特徴）～

トレーニング室兼多目的利用室

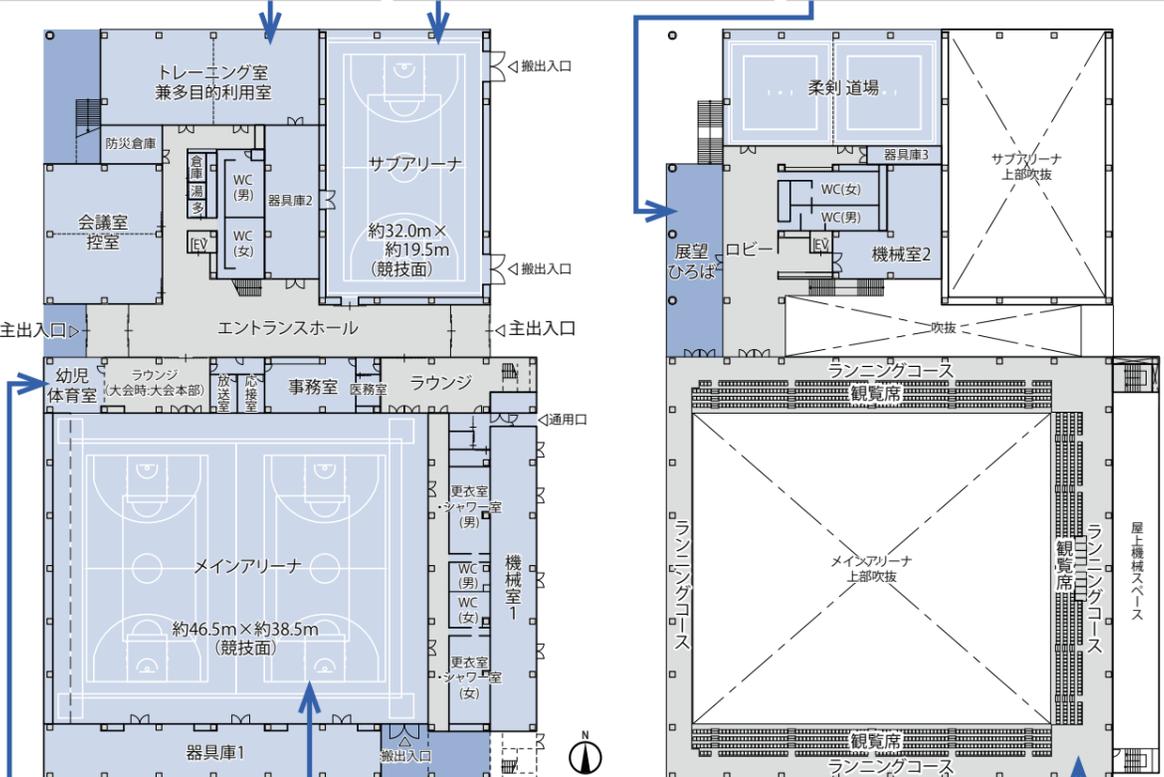
トレーニング室は誰でも利用しやすいよう多目的利用室を兼ねており、移動間仕切により2部屋に分割することで、複数の団体の同時利用ができます。

サブアリーナ

このほか、バドミントン公式3面、卓球公式4面で利用できます。

ロビー・展望ひろば

北アルプスへの眺望を最大限確保し、安曇野らしさが感じられる空間を目指します。また、公園利用者も気軽に利用できるよう、プロムナードから直接アクセスできるようにします。



1階平面イメージ

幼児体育室

メインアリーナに面して幼児体育室を設けることで、スポーツをしながら子どもを見守れるようにします。また、幼児の体力づくりの場としても利用できます。

2階平面イメージ

メインアリーナ

このほか、バドミントン公式10面、卓球公式12面、フットサル公式1面、バレーローカル3面でそれぞれ利用できます。

ランニングコース

メインアリーナの観客席の後ろには幅約2m、1周約200mのランニングコースを設置し、日頃の健康づくり・体力づくりの場として利用できます。

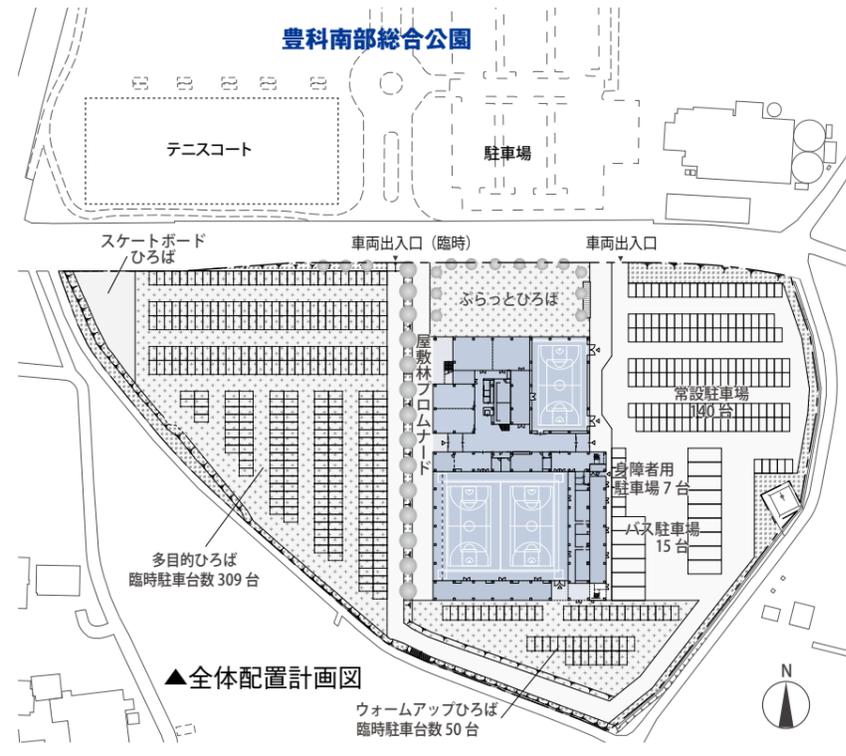
～今後のスケジュール～

平成29年度	基本設計
平成30年度	実施設計
平成31～32年度	建設工事
平成33年度	開館

建築面積：約 5,555㎡
 延べ面積（屋内のみ）：約 7,300㎡
 延べ面積（半屋外を含む）：約 7,725㎡

※今後行う実施設計により、変更となる場合があります。

市民の皆さんに愛され親しまれる体育館を目指して



- ～基本設計の方針～
- 市民交流を促す体育館
スポーツ利用者だけでなく誰もが気軽に利用できるよう、ラウンジやロビー等市民の憩いの空間を整えます。また、トレーニング室や会議室などは多目的利用に配慮し、さまざまな交流活動に使用できる施設とします。
 - 安全・安心な体育館
災害時に一定期間避難生活を行うことのできる指定避難所として、災害に強い施設を目指します。サブアリーナには災害支援物資の集配場所としての機能を持たせます。また、防災倉庫には簡易組立トイレを備蓄します。
 - スポーツ拠点となる体育館
メインアリーナは、大規模な大会会場としても利用できるよう、主要な競技規則を満たす規模を有します。観客席は1,000席の常設席を含め、イベント時には仮設席と合わせ最大2,000席を確保します。
 - 安曇野らしい体育館
高さを抑えた緩やかな曲面の大屋根が北アルプスの山並みに呼応し、良質な景観を生み出すとともに、アリーナやエントランスホールには市内産木材を活用し、ぬくもりある安曇野らしい環境に配慮した施設を目指します。

～建設事業費～

新総合体育館に伴う概算事業費は、約38億円を基準として事業を進めていきます。

新総合体育館単体の工事費等	約33億円
拡張用地費・駐車場整備等一式	約5億円
合計	約38億円

(備品購入費は、別途1億5千万円程度を見込みます。)

プロムナード外観イメージ

豊科南部総合公園を南側に拡張して整備を行う、合併協議会の懸案事項であった新総合体育館建設事業は、基本計画で定めた「する・見る・支える」「市民交流」「健康長寿」「安全・安心」の4つのテーマを基に、市民ワークショップなどで検討を重ね、諸室の大きさやレイアウトが決定しました。本年度は基本設計を基に詳細な設計を進め、平成32年度の完成を目指します。その後、豊科南社会体育館と豊科武道館剣道場は取り壊す予定です。

注目情報

安曇野の「やま」「まち」「ひと」をつなぐ
新総合体育館基本設計が決定

豊科南部総合公園を南側に拡張して整備を行う、合併協議会の懸案事項であった新総合体育館建設事業は、基本計画で定めた「する・見る・支える」「市民交流」「健康長寿」「安全・安心」の4つのテーマを基に、市民ワークショップなどで検討を重ね、諸室の大きさやレイアウトが決定しました。本年度は基本設計を基に詳細な設計を進め、平成32年度の完成を目指します。その後、豊科南社会体育館と豊科武道館剣道場は取り壊す予定です。